

## 《第 36 号》「ドイツの授業風景から」

山根香織 （主婦連合会会長）

先日、消費者教育についてのセミナーに参加して、ドイツの教育学者から小学校で行なっている興味深い授業のお話を伺いました。

まず、子どもたちに願いは何？ 何が幸せ？ と聞くと、「好きなゲームをたくさん買う」「おしゃれな服がほしい」などと子どもらしい答えが返ってきます。さらに夢や理想の将来像を尋ねると、それぞれあこがれの職業に就いて素敵な相手と結婚して、立派な家に住んで、可愛い子どもが生まれて、そしておじいちゃんおばあちゃんにならって2人で世界旅行に行つて、・・・と素晴らしい人生を語るそうです。

そして、そこからがユニーク。クラス全員を、失業するグループ、離婚するグループ、病気になるグループと3つに分けるというのです。子どもたちはビックリ、がっかりしますが、人生にはこうした不幸がかなりの確立で起こり、良い事と悪い事の繰り返しであると教えるのだそうです。子どもたちは、さてこの困難をどうするか、どんな用意をしておくことが必要だったかなどについて話し合うということですが、「本当の願いはお母さんにもっと大事にして欲しいことだ」「お金持ちでなくてもみんな元気なのがいい」「どうすればお金で買えない幸せを手に入れることができるか」「みんなが悲しい思いをしない社会にした」といった言葉が聞こえてくると言います。

これを買えば幸せになれる、もっと買えばもっと幸せになれるといった宣伝文句に惑わされてつい欲張りになりますが、それが本当に必要なものか、長く大事にできるか、価格は適切か、そしてその製品がどう作られたのかを考えることは重要です。何が幸せか、本当に大事なものは何か等、ドイツの授業風景を伺っていろいろと考えさせられました。

以上